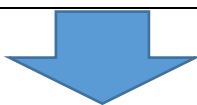


# 令和3年度 授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 社会 ） 学年（ 1 学 年 ）

## 目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。



## 授業・アンケート等の課題分析

7月実施の授業アンケートでは、「社会の授業で学ぶ楽しさを感じる」という問いに「あまり当てはまらない」と回答した生徒は5名（18%）であった。学習に向かう姿と学習習慣が十分に身に付いていない生徒も多い。学力を身に付けたいがどうしたらよいかわからない（やり方がわからない）タイプと、社会科の学習の意義や必要性を実感できない（学習したくない）タイプの生徒がいる。



## 成果と課題

### 成果

授業において画像や映像教材を活用し、さまざまな面から生徒の関心や意欲を引き出す工夫を行った。また、教科書等の表記を参考にしながら、事象について説明する練習を行い、読解力・表現力を向上させた。授業のふりかえりを充実させ、学んだ内容を自分の言葉で説明する時間を毎時間設定した。授業アンケート結果（2月実施）によれば、「社会の授業では、自分の考えを書いたり、発表する機会が与えられたりしている」という問いに100%の生徒が肯定的に回答した。また、同アンケートによれば「社会の授業では学ぶ楽しさを感じる」という問いに94%の生徒が肯定的に回答した。

### 課題

第4回定期考査の結果、達成率80%の生徒は25名中4名であり、第1回定期考査結果と人数の変動がない。ただし、4名中、同一生徒は1名のみである。3名は得点を向上させたと言えるが、別の3名は得点を低下させてしまったと言い換えることもできる。また、達成率50%未満の生徒も依然として多く見られ、学年全体として基礎的学力の向上が課題である。

# 令和3年度 授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 社会 ） 学年（ 2 学 年 ）

## 目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。



## 授業・アンケート等の課題分析

授業アンケート結果（7月実施）によると、「社会の授業に積極的に取り組んでいる」という問いに96%の生徒が肯定的に回答していた。2月実施の同項目についても95%の生徒が肯定的に回答していた。しかし、「社会の授業はわかった、できたと感じる機会がありわかりやすい」という問いに否定的な（当てはまらない0名、どちらかといえば当てはまらない3名）回答の数は7月・2月とも変動がなかった。授業では全体として意欲や素直さが十分あるが、小テストや定期考査の得点が伸び悩む生徒も多い。学習内容の理解をより着実にするとともに、学習習慣の定着を目指す取り組みを行った。



## 成果と課題

### 成果

毎回、授業の始めに、テーマに関する「現時点で自分が知っていることや考えていること・予想」を記述し、学習後にその予想や認識が合っていたかどうかを検証しわかったことを表現する活動を行った。当初は表現や記述に戸惑い、学習内容の重要語句を活用できない生徒も多かったが、継続することで内容に関する知識（重要語句をとらえる）や判断力（何を書けば良いか）、表現力（どのように書けば良いか）が向上している。また、小テストを実施することで、生徒が学習のきっかけやペースをつかみやすくなった。

### 課題

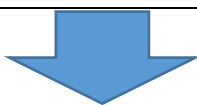
小テストを実施することによって、実施直前の休み時間には熱心に学習に取り組む様子が多く見られたが、点数がふるわないことも多く、学習に計画的・継続的に取り組んでいない。一学期から継続して取り組んだ課題内容の習得に学年末の段階で不確実な生徒も多いことから、授業内容をさらに精選し、課題設定や授業展開の工夫を行うとともに、生徒の学習の質・量を向上させることが課題である。

# 令和3年度 授業改善推進プラン 成果と課題

担当教科（ 社会 ） 学年（ 3 学 年 ）

## 目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。



## 授業・アンケート等の課題分析

授業アンケート（7月実施）によれば、「社会の授業に積極的に取り組んでいる」という問いに20名の生徒は肯定的に回答していたが、「社会の授業で学ぶ楽しさを感じる」という問いに肯定的に回答していた生徒は19名であった。夏の時点で生徒同士が意見を共有することはできる（自分の考えを発表し合う）が、互いの意見に質疑を交わして深め合うまでには至っていなかった。互いに説明や質問をすることにより理解が深まると考え、授業においてそれらの機会を積極的に増やした。



## 成果と課題

### 成果

授業アンケート（2月実施）によれば、「社会の授業で学ぶ楽しさを感じる」という問いに肯定的に回答する生徒が20名となった。同アンケートで「社会の授業では、自分の考えを書いたり、発表する機会が与えられたりしている」という問いに21名全員が肯定的に回答している。公民的分野においては、学習の土台にSDGsを意識させて学習を継続してきた結果、多くの生徒が社会事象の持続可能性についてグローバルな視点とローカルな視点から捉えることができるようになった。

### 課題

「自分の考えを書いたり、発表する機会が与えられたりしている」という問いに21名全員が肯定的に回答する一方で、「他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができている」という問いに2名が「あまりあてはまらない」と回答した。生徒が学び合うことによって自分の考えの深まりや広がりを実感し、学ぶ楽しさを全員が感じることでできる授業展開を工夫することが課題である。